

# 激闘のセンバツを終えて 赤鬼の春Ⅱ文 63

## 選手のコメント紹介 ⑥

### 16 永井結登君

永井結登君(2-5)は花巻東戦を「9回までに1点を取ってれば、増居がノーヒットノーランだった。増居に申し訳ない」と悔しさをにじませた。また2試合にスタメン出場したことについて「当日にスタメンだと聞いてうれしさもあったが、緊張でそわそわしていた。監督が起用してくれたことに対して期待に応えると同時に、結果を出せるように集中して試合に出場した」と振り返った。

甲子園で見つかった課題を「点数がなかなか入らなかった。スイングができなかったことが原因だと思うので、どんなピッチャーでも打てるよう強いスイングを心がけ、効率よく点数を取れるような練習をしたい」と分析した永井君。最後に「良い舞台で野球をさせてもらっている。これから練習して近江高校に勝利し、夏の甲子園で二勝したい」と意気込んだ。

### 17 嶋崎詠君

嶋崎詠君(2-2)は「増居に頼りっぱなしだった。同じピッチャーとして、大事なところで投げさせてもらえないように実力を伸ばしたいと思った」と今回の甲子園を振り返った。また印象に残ったことを「高内のホームランが印象的だった。相手の逆転で流れが相手側に傾いたところで一発を打ち、試合に勝つことができたのですばらしかった」と話した。

「東高に入る前から甲子園に行きたいと思っていた。力があるとは思っていたが、まさか夏春連続で甲子園に行けるとは夢にも思っていなかった」と笑顔を見せた嶋崎君は「増居に頼りすぎないように、投手力をこのチームで上げていきたい」と前を見据えた。

速報新聞

# キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

## 新聞部

彦根市金亀町4番7号

### 18 西田乗斗君

西田乗斗君(1-7)は花巻東戦を振り返り「増居さんが良いピッチングをしたにも関わらず、勝てなかったので悔しかった。自分も試合に出ることができなかったもので、力の無さを実感した」と悔しげな表情を見せた。また1年生ながらベンチメンバーに選ばれたことについて「複雑な思いだった。村中先生に選んでいただけたのはうれしかったが、先輩方を差し置いて自分が出て良いのかという不安もあった。それでも自信を持って、1年生だからといって遠慮せずに頑張ろうと思った」と明かした。

「バッティングが良くないという明確な課題が見つかったと思うので、夏の甲子園に向けて練習を頑張りたい」と先を見据えた西田君は「今までは先輩についていこうとしていたが、もうすぐ新1年生が入ってくるので状況が変化すると思う。そんななかでも良いプレーをして、夏にまた甲子園に行きたい」と語気を強めた。

### 篠原千尋さん

マネージャーの篠原千尋さん(1-7)は甲子園を振り返って「甲子園という大きな舞台のなかで自分たちの力が通用することがわかり、夏への気持ちが高まった」と話し、試合について「慶応戦は初戦だったので緊張していたが、応援席やベンチの熱気、さらに高内さんがホームランを打ってくれたおかげでリラククスできて楽しかった。花巻東戦は増居さんが何よりすごかった。でも、もう少しで大阪桐蔭と戦っていたと思うと悔しい」と打ち明けた。

「マネージャーとして選手の体重管理や、体調が悪そうな人に声をかけるなどのサポートをしてきた。常に笑顔でいることを意識していて、マネージャーの仕事が大変だと思っただけではない」と笑顔で話した篠原さん。「去年の夏に『次にベンチにいるのは自分だ』とあっていて、甲子園は自分にとっても憧れの舞台だったのでうれしかった。次の夏、春も甲子園に行きたい」と意気込み、「結果を後悔せず反省して、夏に向かって頑張ります」と選手にメッセージを送った。